

ホーム名：グループホーム東神田の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価（あかしあ通り）	外部評価（あかしあ・けやき 総評）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

I. 理念に基づく運営

1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示し職員が理念を共有し実践につながっている。	法人理念を用いている。信頼を寄せ優しさと思いやりを持った支援を行うよう努めている。今後グループホームとして独自の理念をユニット別に作る予定である。	“自分たちで作りに上げた理念”と言う事に意味を感じる。思いを寄せ合い、気持ちが詰まった理念が出来上がる事を楽しみにしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すぐとなりが小学校なので、頻繁に交流を持ち、自治会とも連携して、地域の行事等に参加するようにしている。また、散歩の時には近隣住民と必ず挨拶を行うなど、近隣住民との交流を図り、地域住民に気軽に来所していただけるよう努力している。	自治会に加入し、町内清掃に参加している。自治会長のお力添えで小学校での運動会に参加し、交流が持たれた。今後ボランティアの受け入れや、敷地内同法人施設と共同で催しを行う際に近隣の方々に声かけをする予定である。	自治会長、副会長共々運営推進会議に出席され、地域との橋渡しをして下さっておられる。大変有り難い事である。今後も地域の方々との交流に努めていかれたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族の方の思いを聞き、ケアのポイントになるような助言を出来る限り行っている。運営推進会議にも地域の自治会役員の方に参加していただき認知症の方の理解を深めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者、家族、自治会役員、包括支援センター職員から聞かせていただきサービス向上に活かしている。	入居者・家族・東神田町自治会長・副会長・第5中地域包括支援センター職員・ホーム職員を構成メンバーとして、2か月に1度開催している。ホーム内の開催は場所の確保が難しい事から、市の承認を得て敷地内同法人施設内で行っている。	自治会長・副会長の積極的な発言で、内容の濃い会議となっている。会議後はホームに足を運び、事業所内の様子を見て頂く様にされたい。家族全員への出席の声かけ、議事録のフォーム見直しを図られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者に現場の実情を積極的に伝え、必要があれば訪問又は、来訪していただき、課題解決に取り組んでいる。	本ホームは、市の施策による公募での指定、設立でもあり、協力関係は築けている。市からは入居の依頼、市へは入居者の入院・手術に関して相談・助言を得た経験がある。保護課との連携を密に行っている。	開設初期には運営推進会議に出席を頂いた（現在は包括に委任）。運営の実態を見て頂く為にも時には会議への出席をお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアをめざしている。施錠に関しては、不穏状態者がいるためにやむを得ず施錠を行っているが、開錠ができるように職員が話し合いを行っている。	法人で「身体拘束防止委員会」が設置されており、啓発に取り組んでいる。安全確保の為、フロア出入口はテンキーにて操作を行っている。現在、センサーマット使用者が数名おられる。	管理者は今後も職員の理解を深める取り組みを行っていきたいと考えている。すぐ安易な方法（物）に頼らない、と言う事を職員全員で話し合い、取り組んでいかれる事を願う。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄時等に注意を払い防止に努めており、ユニット内でも職員間で何が虐待になるのかを話し合い確認を行っている。ご家族との契約時にも虐待防止措置の説明し同意を頂いている。	/	/

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用されている入居者が多くいるので、実際の事例を通して、制度を学び活用できるように支援を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には入居者やご家族等に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でもわからないと言われた場合には随時訪問させていただき説明を行っている。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者やご家族に運営推進会議へ出席していただき、ご意見、ご要望等をお聞きして運営に反映させている。 又、ご意見箱の設置も行い、意見を取り入れるように努力している。</p>	<p>法人による家族アンケート「満足度アンケート」を昨年秋実施し、その中で意見や苦情も聞いている。意見箱を設置し、表出の機会を設けている。様子や変化が見られた時には即家族に詳細に伝えている。今後ホーム便りの発行を考えてい</p>	<p>家族からの意見や苦情は支援の充実につながる。心置きなく言って貰える関係作りを大切にされたい。意見や苦情は運営推進会議等で公表する事も信頼関係を構築する上で必要な事と考える。</p>
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度、リーダー会議、ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。</p>	<p>職員の提案により、市の福祉関連施設「総合センター」での喫茶、1階テラスでの食事など実施された。また、レクリエーションの記録を付け、今後の取り組みに活かそうと試みている等積極的な職員の働きがある。</p>	<p>今後も、職員からの自発的な提言が運営に反映され充実に繋がる事を期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務時間の時間帯については、スタッフがしっかりと休みが取れて夜間および深夜の時間帯以外の時間に人員不足とならないような時間帯の変更を考ええている。 (夜勤を1勤→2勤) 又、資格取得を奨励してやりがいや向上心を持って働けるように努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一人ひとりの持つ力量を見極めると共にお互いのケアの方法や技術をユニット会議で話し合い介助方法や技術を勉強している。施設内外の研修には、出来る限り参加すると共に参加できなかった職員にも、伝達講習を開催したり、報告書や資料を見るように指導している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他事業所の意見・情報交換会などに参加している。 担当ケアマネが連絡会等の事業所連絡会にも参加している</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は入居者ご本人に必ず一度居室を訪問していただくように声かけて実行している。入居者ご本人に安心して、入居していただくように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時に困っていること、不安なこと、要望などを聞いて確認させていただくように努めています。また不安がある場合には、入居契約後であっても、来所していただき説明して信頼関係を深めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできないことに注目するのではなく、できることに目を向け得意なことを促すように努め、読書が好きと聞けば本を用意し、裁縫が得意な方には、縫物を手伝っていただき支え合い関係を作っている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族との絆を深めていただく為、基本的な面会時間は決めているが、ご家族の都合に合わせて外出や外泊等を自由に行っていただいている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の面会は自由でいつでも来ていただけるようにしている。	家族の協力で馴染みの理・美容院へ行かれる入居者がおられる。入居前に住んでいた自宅に、名残を惜しみに職員と出かける事もあった。要望があれば出来る限りの支援をしたいと考えている。	居室にも馴染みの物品が多く見られた。今後も馴染みの人や物、場所との関係が継続されるよう支援をお願いする。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イスやテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者に確認後、一時的に席の変更させていただいている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られても、必要な情報は提供している。転居された方に対しても面会等を行い、関係が切れないようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声かけの際、入居者の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にてお話を聞かせていただいている。	傾聴に心掛け、入居者の気持ちを引き出すよう努めている。「申し送りノート」に記録し、職員間共有を図っている。	理事長の“やさしく接してあげてください。話を聞いてあげてください。”の言葉を心に刻み、入居者と信頼関係を大切にしながら今後も把握の努力を重ねていって頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないよう知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば職員間で連絡を取れるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しは勿論だが、日々状態の変化がある時には、ご家族の意見、意向を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い入居者に対し何が良いのかを探しながら計画の変更を行っている。また、月に一度ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	毎日を穏やかに笑って過ごして頂く事を主眼に置き、介護計画を作成している。本人・家族の要望、看護師からの指示がある時は反映しながら作成している。目標は職員間で共有し、達成に向け支援している。	往診時にはかかりつけ医の意見も聞きながら、その人その人に即した介護計画の作成に取り組んで頂きたい。達成感を味わって頂けるような身近な目標設定で、毎日をいきいきと過ごして頂けるように支援されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わったそれぞれの職員が個人記録に適宜記入を行い、情報を共有し活かし、介護計画作成の基本としている。伝達ノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう、家族や成年後見人等に確認して利用していただけるように取組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人らしく生活していただけるように、またADLやIADLの維持に繋がり安心・安全に暮らしていただけるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に寄り添い、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている。	内科的には現在全員が協力病院の往診を月に2回受診している。他の診療科は必要に応じて付き添っている。訪問看護と歯科の往診は週に一度あり希望者は受診している。	入退院時には看護サマリー、介護サマリー、フェースシートを有効に活用し正確な情報の共有に努めている。高齢者の場合急変の確立が高いため適切な対応が出来るよう職員間で情報を共有して支援してもらいたい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない為、訪問看護師に週一度、訪問していただき、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には、職員がご家族、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先の医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族が訪問された場合にお話をさせていただいている。重度化になった場合は、このまま施設で見てもらえるのかと不安を訴えられる場合もあり、その都度説明を行い、ご家族様の意見や意向を聞かせていただいている。ただ、家族様の中には、「今後、考えます。」とおっしゃる方もおられます。</p>	<p>常駐の看護師がいないことや医療面での事業所の現状、事業所として出来ること等を入居時に家族にしっかりと伝えている。</p>	<p>現在は医療面などの問題で看取りは行っていないが、事業所に限らずどこで看取ることが一番その人の希望に添うのかを家族と何度も話し合うことは大切であると考えている。関係機関との連絡体制はもとより、事業所が行っている温かい見守り支援の心も共有して継続していられる事を期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時および初期対応の勉強会を定期的に行っている。全員参加できていない場合はミーティング等により伝達講習を行っている。また、事故、急変時スムーズに対応できるよう、希望搬送先やご家族の連絡先の再確認を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して昼夜の非難誘導や災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討し行っている。</p>	<p>年に2回、夜間、日中を想定し消防署と協働で避難、総合訓練を行い内1回は検証訓練を行っている。その為、より緊張感を持って訓練に参加出来ている。スプリンクラー、煙探知器、各階に消火器の設置がある。</p>	<p>3月、9月には消防設備点検もある。地域の住民への声かけも継続し充実した訓練を今後も継続されたい。ハザードマップを基に全職員で有事の際の行動を再確認された。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内に接遇委員会を設置し入居者への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内の良く見える所に貼り、職員の意識付けを行っている。職員の対応等、ご家族へのアンケートも実施している。	毎月の標語は「咲かせよう、やさしい心、思いやり」という心に残る言葉になっている。認知症のため何度も同じ質問を繰り返す入居者に対して職員は同じ態度で答え、話をゆっくり傾聴している。	決定権は入居者にあること、優しい笑顔での接遇を管理者は職員に伝えている。今後も温かい支援を希望する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声かけを行い自己表現や意見の言い易い環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者が自由に自分らしく生活できるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を取り入れている。また、起床時は洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声かけを行っている。又、化粧やマニキュア等も希望の場合に実施している。但し、マニキュアは、透明の物を使用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考えて、食材は業者に発注している。今後は、入居者と職員と一緒に食事の準備ができるように手作り食の実施を考えている。また、気候のいい時期にはバルコニーで食事を摂り、好評頂いている。	業者から届いたものを湯煎して提供している。行事食を手作りをしたり、状態に合わせて刻み、とろみ、ペースト状等にも、事業所で対応している。味付けなどの評判は良い。	一人一人のペースに合わせて食事を楽しんでいる。今後は外食の機会なども取り入れたいという事で期待している。また、職員が同じものを一緒に食べる事も和やかさが更に増すのではと提案する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い一人ひとりの状態を把握し、一日の摂取量が確保できるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行いチェック表で確認を行い、食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るよう心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をすることにより失敗を少なくするように努めている。	「排泄・水分摂取表」を基にトイレに声かけしている。状態によりリハビリパンツを布パンツに替えていくことも視野に入れながら見守り、介助している。ホットタオルをいつでも使用できるように用意し気持ちよく過ごしてもらえるよう気配りを行っている。	汚れた下着や汚物処理を静かにプライバシーを大切に行っている。お漏らしの理由が、尿意、トイレがわからない為か、尿道括約筋の緩みのせいかな、等も見極めその人に合った支援を今後も続けられる事を期待する。
		○便秘の予防と対応			

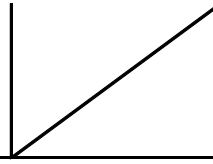
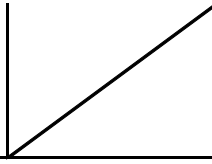
44		<p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防として、毎日の運動やレクでの風船バレーの実施、おやつ時にヨーグルトや繊維質の食べものを提供し、排泄チェック表を使用し、KOTのカウントを実施、3日間排便がない場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員の都合で曜日や時間帯を決めずに行うように支援を行い、午前中を希望される方や一番先に入浴を希望される方、一人で入浴を希望される方を把握して、見守り、介助を行い入浴していただいている。また、入浴していただけない方には、足浴を行っている。</p>	<p>入浴時間は昼から夕方までで、「入浴実施シート」で管理しながら週に2回くらい入浴できるよう支援している。足浴も実施している。湯の入れ替えはその都度行い、季節を感じてもらえるようゆず湯、菖蒲湯も取り入れている。</p>	<p>今後も入居者一人一人の希望に合わせてゆったりとくつろげる時間になるような入浴介助を期待する。</p>

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、スタッフが居室内で一緒にお話をしたり、居間で一緒にお茶を飲んでいただく等、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、職員が行っており、各職員には、服薬の副作用や用法、容量は各個人ファイルにお薬の説明書を確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の入居者の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技などの把握に努めており、自身の力を発揮できるような関わりを心がけている。また、プログラムやレクにおいても利用者様の意向を伺いながら実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暑い日や寒い日等の場合は、出掛けることが出来ないが、個々の希望により散歩等の気分転換を行うように声をかけて外出を行うようにしている。またご家族の来所時には、ご家族とご一緒に外出していただいている。	「散歩実施シート」に記入することで出来るだけ少しでも外気を感じてもらえるように支援している。公園、スーパー、喫茶店等に行く事もある。	「花見に行こう」「今日は外は暖かいですよ」という職員の声かけがリビングから聞こえていた。認知症や高齢ということもあり外出もおっくうになることもあるが今後も温かい声かけで外気浴に誘ってもらいたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、使うことが不可能な方が多いという現実がありますが、一人ひとりの希望や力に応じて支援を行います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に電話機や携帯電話を置いていただき、家族や大切な人との連絡をとっていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者が皆で作成した貼り絵や入居者が作成した作品を飾る等の工夫を行い、入居者が快適に過ごせるようにしている。又、スタッフが温度調節やカーテンで光の調整を行っている。	壁には入居者が色を塗ったカレンダーや貼り絵などの作品が飾られている。1階はピアノの伴奏に合わせて歌声が流れ、職員が季節に合わせて装飾を考え和やかで居心地の良いリビングになっている。	居室の掃除は毎日行われ、「シーツ交換管理シート」をつける事により寝具も清潔に管理されている。それぞれのユニットの特徴を大切に笑顔と音楽に包まれた優しいリビング作りをこれからも期待している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物を入居時に持参していただき、ご本人様が居心地よく生活していただけるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し本人が落ち着け居心地良く過ごせるよう、ラジオ、テレビ、椅子、机等、各個人に馴染みのある品を置いていただき、居心地の良く過ごせるよう努めている。また、本人に確認して、ぬり絵、書道等の作品を壁に貼っている。	各部屋は一人一人の個性が感じられるようお気に入りの家具や物を置いて自分の部屋らしくされている。	見当識障害のリハビリの為にも各部屋にカレンダーと時計を置き今日が何月何日、今の季節は、今何時だから等考えることを日課に出来るように今後も支援を続けられることを期待する。
		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

55

建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している

トイレや居室には貼り紙を行い場所が明確になるように工夫している。



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない